

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791600129		
法人名	医療法人社団 ひかり会		
事業所名	グループホーム愛寿苑		
所在地	香川県仲多度郡多度津町青木148番地		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 27 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには母体である医療機関があり、常日頃から関係を密にして医療面でも安心できる環境にあります。事業所の名前からとったあいじゅを理念として、暖かい環境の中で いきいきと 自分らしく ゆったりと を掲げ入居者様に寄り添い、人格を尊重した支援ができるように努力しております。誕生日会やおやつクッキング、季節行事を取り入れ、入居者様が楽しい生活が送れるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3791600129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 10 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長は職員や利用者に対して、【暖かい思いに満ち溢れた環境作り】に日々励んでいる。利用者は施設の中で、体操や脳トレに取り組むことで、【いきいき】した表情をしている姿を評価員は目の当たりにした。利用者の立場に立って、【ゆったりと】【自分らしく】過ごせるように、理念に基づいた対応をする職員のケアが見られた。入浴や食事の際も時間や決まりにとらわれすぎないで、柔軟に個人にあった対応をしている。提携病院との連携も密で、行事への参加もあり、利用者の穏やかな生活と家族への安心に繋げている。コロナ禍で外出できないが、インターネットを活用して、体操をしたり、風景を見たりして、気分の転換を図る工夫をしていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にできるように玄関と事務所に掲示し、毎朝の朝礼で復唱して共有、日々の実践に向けている。	朝礼時に事業所としての「ケアの基本」を復唱している。項目を細分化して、職員が日替わりで順読み上げることで、職員への周知と、理解向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、地域の方々の散歩時は挨拶を行ってつながりを持てるようにしている。パンフレットを配り、苑の説明等を行い、理解していただけるようにしている。敬老会等の行事の際には病院職員の協力を得、雰囲気場の設ける等考え、普段とは違う刺激を与え、喜びを感じて頂けるよう努力している。	往診に来られる看護師長が、イベント時に歌手のさながらに歌い、場を盛り上げることがある。散歩中に近隣住民に挨拶をしたり、近隣住民や訪問施設・病院にパンフレットを配ったり、声をかけて事業所について伝えたりすることで、事業所が地域に根付く働きかけを行っている。	事業所内の情報を、さらに発信してはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、町職員からの情報を得よう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。コロナ感染対策の為、地域の方々の参加はないが、医療機関、町、入居者様に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。	運営推進会議はコロナ禍の為、町に了解を得た上で、内部で実施している。結果は書類にまとめ、病院や役場に持参している。利用者家族には資料を郵送していて、来所時や電話をかけた際に、利用者の様子と併せて意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば連絡して助言をいただき、協力をお願いしている。	生活保護や事故発生時の対応について、電話だけでなく、市町村に行き確認している。密な連携を積み重ねてきたことで、必要な情報がすぐに交換できる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束委員会を立ち上げ、全職員に周知、苑内での勉強会を2ヶ月に一度開催して理解を深めるようにしている。	運営推進会議に併せて、身体拘束とならないための対応・対策について研修する場を設けている。職員が情報を集め、講師となることで、理解を深めている。またヒヤリ・ハット報告書を元に上げ、気づきの力を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やカンファレンスにて虐待についての話し合いを行い、職員間での日々の言動に気を付け虐待防止に努めている。職員は自身の健康状態に気をつけたり、ストレスを感じる事など、職場で話し合いを行い、平常心を保ち職務に取り組めるよう、フォローしたり努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内にも成年後見制度を利用されている入居者様もあり、職員も学ぶ機会が持て理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に本人様、家族様に書面にて説明を行い、十分に納得して頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から電話での連絡をとり、意見や要望を聞き、担当者会議時にも相談事や要望を聞き、運営に反映している。	利用者家族との連絡は、月に1回以上連絡を取っており、利用者家族の動きやすい時間に対応できるよう、配慮している。利用者家族が利用者の様子を心配して、差し入れがしたいとの申し出が多く、可能な限り受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンス等で職員の意見、業務における問題点を聞き、協議し、日々の支援に反映させている。	申し送りノートを活用するとともに、定期的に10分間のミニカンファレンスを行うことで、ヒヤリハットや診療内容等の共有を図っている。職員間で何でも言い合える関係ができていて、利用者が自分らしく生活できる工夫について、日々話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に会議を行い、管理者を通じて職員の勤務状況や実情の把握に努め、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な会議を開き、現状の把握や内部研修の実践、外部研修への参加、また、オンラインの研修にも参加できるよう職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から町での多職種の会議にも参加している。現在はオンラインにて参加させていただき、サービスの質の向上に向けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し面談を行い、本人様、家族様、介護支援専門員、相談員からの情報を受け、面談をさせていただき、心身及び生活歴を把握している。本人様の思いや不安を傾聴し安心して生活が送れる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時にご家族の不安や思いなどを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の結果を踏まえ、必要な支援を見極め、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する一員として本人様のできる家事を日課に取り入れて一緒に行っている。入居者様から教わる姿勢も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策中で面会制限中であるが、必要に応じて電話にて近況報告をしたり、窓越しやオンライン面会をして家族様と繋がりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策で外出制限中であり今後の状況に応じ、オンラインでの面会も行っていく。また、ハガキや手紙の便りもあり大事にされている。	遠方に居る家族から、電話やはがきが届くことで、安心感に繋がっている。近隣に住まれている方は、コロナ禍のためガラス越しとなっているが、面会できていることで、馴染の関係が継続している。玄関のベンチが、季節の移ろいを感じやすい空間となっていて、馴染の場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共同で作業を行う事でのなじみの関係が築けるようにしている。また、自らコミュニケーションをとる事が難しい入居者様に対しては会話の工夫をしたり余暇活動に職員が間に入り関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても顔を見せていただいたり、連絡をして話ができるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに対し、生活歴を把握してアセスメントを行い、本人様の希望に沿った支援を個別に実施している。	まず利用者の言葉を傾聴することで、安心感を与えている。やりたい思いを尊重し、タオルを畳んだり、新聞を折ったりしている。日々の生活所作との違いから気持ちを読み取り、言葉をかけ、気持ちに寄り添うことに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から情報収集をして日々の生活に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り記録等で職員の情報共有を行い、心身の状態を把握している。毎日の朝礼でその日のリーダーが利用者様の体調変化、特変、医者からの指示等の報告を申し送りすることで職員は両ユニットの利用者に関する情報を把握・共有することで対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスで職員の意見を聞き、家族様にも要望等を確認したうえで介護計画を作成できるよう努めている。	新規利用者は3か月でプランの更新を行い、以降は半年もしくは1年で更新している。日々の支援や引継ぎの中で、職員から利用者の様子や意見を把握している。利用者から近場でも散歩したいとの意向が見られ、ケアプランに反映し実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況の変化等についてカルテや申し送りノートに記入し、職員間での情報を共有している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のニーズに沿って柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策で制限はあるが、常日頃から地域の資源を把握しておき、今後状況を見ながら対応していく。現在は歯科と散髪を訪問を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び家族様の希望を確認しているが、協力医療機関に変更することが多くなっている。定期受診の付き添いや特変があれば電話で指示をもらっている。	かかりつけ医から、月に1度受診を受けている。歯科も月に1度受診を受けているが、気になる際には、さらに受診を重ねられる。病院の夜勤ナースとの連携も取れていて、緊急時の対応も依頼できる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や病院の看護師の訪問時に入居者様の日々の健康状態について適切な指示をもらい、受診の調整をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は必要な情報を医療機関に提供し、医療機関職員と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を契約時に本人様・家族様に説明を行い、重度化した入居者様に対しては、家族様、主治医を交えて話をし今後のケアの方向性を決めている。	ターミナルケアは、利用者や利用者家族、かかりつけ医と相談の上、医療機関に繋げている。直近では4名の方が移行しており、安心して支援を受けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的な研修で新しい職員にも実践力が身につくように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施しているが、地震、水害等の災害訓練実施している。	年に2回、避難訓練を実施している。利用者の動きについて、職員の誘導方法と併せて確認を行っている。防災士から、消火器や消火栓の使い方、通報の仕方について講習を受け、研鑽を重ねている。備蓄食料は3日分保管している。	備蓄食料の内容について、見直しはいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い、人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について話し合いをしている。	基本的には、苗字に「さん」を付けて呼んでいる。利用者を尊重し、傾聴する姿勢が基本であることを研修時に伝え、徹底している。衣類を汚された際には、素早く片付け、他の利用者には気づかれぬ配慮をしながら誘導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思っていること、言いたいことを言えるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが入居者様の思いや意見を尊重し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を聞き、衣類等の購入を家族様にお願したり、散髪は2ヶ月に一度理容師に来てもらって個々の好みで整えている。また、爪切りや髭剃り等対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の状態に合わせて盛り付けのできる方、下膳や片付けができる方、それぞれの能力を活かして関わってもらえるようにしている。	食事は利用者一人ひとりの食べやすい形で提供している。配膳時には全員に声をかけ、食事に気持ち向きやすくしている。集団で食事ができにくい方には、時間や場所を変えて食べやすい環境を作っている。配膳や片付けの他、月に1回調理を楽しめる機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量を記録している。主治医とも連携し、食事形態の工夫、量の調整を行っている。摂取状況に応じて栄養補助食品、飲料の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操、毎食後口腔ケアを声かけや介助にて行い、清潔保持に努めている。また、毎月訪問歯科で口腔ケアの指導、義歯調整等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら、声かけ、見守りをして排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	トイレが4か所設置されていて、居室からも行きやすくなっている。自発的にトイレに行かれる方も居られるため、見守りに重点を置いている。排泄チェック表を用いて支援しており、昼夜問わず布パンツで過ごされている方が、半数以上を占めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動により便秘改善に努め、必要に応じて受診し、主治医の指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には本人様の承諾を得てから入浴に行かれている。拒否がある時は時間をずらすことや職員が交代して落ち着いて入浴ができるようにしている。	週2回以上、入浴の機会を設けている。浴槽のお湯をかけ流しにしていることで、清潔な環境を維持している。去年は入浴を嫌がられていた方も、「足を洗おうか」と声をかけることで、入浴ができるようになっている。浴槽内で、さらに落ち着けるように、腰掛け椅子の設置を検討している。	お風呂を一層楽しめるようにするための工夫をしてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠してもらえるように日中の活動や生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個人の症状や服薬内容を職員が把握できるようにしている。服薬時には日付や名前を読んで再度確認して誤薬が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をしていただき達成したことへの感謝の声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、外出は制限中で苑内での散歩になっているが、映像や本等を観て今後の楽しみにしている。	事業所内でのお花見や、近くの病院の庭に散歩に行くことで、四季の風を感じている。コロナ禍で外出が制限されるため、カルタや神経衰弱、連想ゲーム等、事業所内のできるイベントに力を入れている。職員が輪に入ると、かなりの盛り上がりを見せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様が遠方であったり、成年後見人を利用されている方は少額事業所で預かり、必要な物があれば自由に購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回家族様への手紙で日頃の様子をお知らせしたり、作品を送付している。本人様の希望を聞き、本人様の携帯電話で連絡したり、苑の電話をかけたたりし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールにはソファを配置し、個々でゆったりとくつろげるよう配慮している。ホール内には季節に応じた創作活動として入居者様の作品を掲示している。	共有スペースには、利用者と職員が作った四季折々の紙の花や、お月見の壁紙が飾られ、明るく彩られていた。事業所の庭が広く、暖かな日差しが感じられやすい造りとなっていて、利用者全員で脳トレや体操をしながら、ゆったりと過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファでテレビを観たり話をしながら創作活動ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテーブル、机、家族様の写真等、馴染みのある物を居室に置いていただき、家庭的なイメージの中で過ごしてもらえるようにしている。また、居室でゆっくりとテレビを観られるように対応もしている。	居室内はすっきりと整理されていて、生活しやすい環境を、利用者ごとに作られていた。居室のドアに顔写真を貼っている方も居られ、そこが自分の家とアピールしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーであり混乱のない環境作りに努めている。個々の状態に応じて声かけを行い不安なく過ごせるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3791600129		
法人名	医療法人社団 ひかり会		
事業所名	グループホーム愛寿苑		
所在地	香川県仲多度郡多度津町青木148番地		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 27 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くには母体である医療機関があり、常日頃から関係を密にして医療面でも安心できる環境にあります。事業所の名前からとったあいじゅを理念として、暖かい環境の中で いきいきと 自分らしく ゆったりと を掲げ入居者様に寄り添い、人格を尊重した支援ができるように努力しております。誕生日会やおやつクッキング、季節行事を取り入れ、入居者様が楽しい生活が送れるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3791600129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 10 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長は職員や利用者に対して、【暖かい思いに満ち溢れた環境作り】に日々励んでいる。利用者は施設の中で、体操や脳トレに取り組むことで、【いきいき】した表情をしている姿を評価員は目の当たりにした。利用者の立場に立って、【ゆったりと】【自分らしく】過ごせるように、理念に基づいた対応をする職員のケアが見られた。入浴や食事の際も時間や決まりにとらわれすぎないで、柔軟に個人にあった対応をしている。提携病院との連携も密で、行事への参加もあり、利用者の穏やかな生活と家族への安心に繋げている。コロナ禍で外出できないが、インターネットを活用して、体操をしたり、風景を見たりして、気分の転換を図る工夫をしていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が常に目にできるように玄関と事務所に掲示し、毎朝の朝礼で復唱して共有、日々の実践に向けている。	朝礼時に事業所としての「ケアの基本」を復唱している。項目を細分化して、職員が日替わりで順読み上げることで、職員への周知と、理解向上に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、地域の方々の散歩時は挨拶を行ってつながりを持てるようにしている。パンフレットを配り、苑の説明等を行い、理解していただけるようにしている。敬老会等の行事の際には病院職員の協力を得、雰囲気のある場を設ける等考え、普段とは違う刺激を与え、喜びを感じて頂けるよう努力している。	往診に来られる看護師長が、イベント時に歌手のさながらに歌い、場を盛り上げることがある。散歩中に近隣住民に挨拶をしたり、近隣住民や訪問施設・病院にパンフレットを配ったり、声をかけて事業所について伝えたりすることで、事業所が地域に根付く働きかけを行っている。	事業所内の情報を、さらに発信してはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為交流は困難であるが、町職員からの情報を得よう努力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。コロナ感染対策の為、地域の方々の参加はないが、医療機関、町、入居者様に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。	運営推進会議はコロナ禍の為、町に了解を得た上で、内部で実施している。結果は書類にまとめ、病院や役場に持参している。利用者家族には資料を郵送していて、来所時や電話をかけた際に、利用者の様子と併せて意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談事があれば連絡して助言をいただき、協力をお願いしている。	生活保護や事故発生時の対応について、電話だけでなく、市町村に行き確認している。密な連携を積み重ねてきたことで、必要な情報がすぐに交換できる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束委員会を立ち上げ、全職員に周知、苑内での勉強会を2ヶ月に一度開催して理解を深めるようにしている。	運営推進会議に併せて、身体拘束とならないための対応・対策について研修する場を設けている。職員が情報を集め、講師となることで、理解を深めている。またヒヤリ・ハット報告書を元に上げ、気づきの力を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やカンファレンスにて虐待についての話し合いを行い、職員間での日々の言動に気を付け虐待防止に努めている。職員は自身の健康状態に気をつけたり、ストレスを感じる事など、職場で話し合いを行い、平常心を保ち職務に取り組めるよう、フォローしたり努力をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内にも成年後見制度を利用されている入居者様もあり、職員も学ぶ機会が持て理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に本人様、家族様に書面にて説明を行い、十分に納得して頂いたうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から電話での連絡をとり、意見や要望を聞き、担当者会議時にも相談事や要望を聞き、運営に反映している。	利用者家族との連絡は、月に1回以上連絡を取っており、利用者家族の動きやすい時間に対応できるよう、配慮している。利用者家族が利用者の様子を心配して、差し入れがしたいとの申し出が多く、可能な限り受け入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のカンファレンス等で職員の意見、業務における問題点を聞き、協議し、日々の支援に反映させている。	申し送りノートを活用するとともに、定期的に10分間のミニカンファレンスを行うことで、ヒヤリハットや診療内容等の共有を図っている。職員間で何でも言い合える関係ができていて、利用者が自分らしく生活できる工夫について、日々話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に会議を行い、管理者を通じて職員の勤務状況や実情の把握に努め、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な会議を開き、現状の把握や内部研修の実践、外部研修への参加、また、オンラインの研修にも参加できるよう職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から町での多職種の会議にも参加している。現在はオンラインにて参加させていただき、サービスの質の向上に向けている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し面談を行い、本人様、家族様、介護支援専門員、相談員からの情報を受け、面談をさせていただき、心身及び生活歴を把握している。本人様の思いや不安を傾聴し安心して生活が送れる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時にご家族の不安や思いなどを傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の結果を踏まえ、必要な支援を見極め、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する一員として本人様のできる家事を日課に取り入れて一緒に行っている。入居者様から教わる姿勢も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策中で面会制限中であるが、必要に応じて電話にて近況報告をしたり、窓越しやオンライン面会をして家族様と繋がりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策で外出制限中であり今後の状況に応じ、オンラインでの面会も行っていく。また、ハガキや手紙の便りもあり大事にされている。	遠方に居る家族から、電話やはがきが届くことで、安心感に繋がっている。近隣に住まれている方は、コロナ禍のためガラス越しとなっているが、面会できていることで、馴染の関係が継続している。玄関のベンチが、季節の移ろいを感じやすい空間となっていて、馴染の場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共同で作業を行う事でのなじみの関係が築けるようにしている。また、自らコミュニケーションをとる事が難しい入居者様に対しては会話の工夫をしたり余暇活動に職員が間に入り関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても顔を見せていただいたり、連絡をして話ができるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに対し、生活歴を把握してアセスメントを行い、本人様の希望に沿った支援を個別に実施している。	まず利用者の言葉を傾聴することで、安心感を与えている。やりたい思いを尊重し、タオルを畳んだり、新聞を折ったりしている。日々の生活所作との違いから気持ちを読み取り、言葉をかけ、気持ちに寄り添うことに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様から情報収集をして日々の生活に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り記録等で職員の情報共有を行い、心身の状態を把握している。毎日の朝礼でその日のリーダーが利用者様の体調変化、特変、医者からの指示等の報告を申し送りすることで職員は両ユニットの利用者に関する情報を把握・共有することで対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミニカンファレンスで職員の意見を聞き、家族様にも要望等を確認したうえで介護計画を作成できるよう努めている。	新規利用者は3か月でプランの更新を行い、以降は半年もしくは1年で更新している。日々の支援や引継ぎの中で、職員から利用者の様子や意見を把握している。利用者から近場でも散歩したいとの意向が見られ、ケアプランに反映し実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況の変化等についてカルテや申し送りノートに記入し、職員間での情報を共有している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様のニーズに沿って柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症対策で制限はあるが、常日頃から地域の資源を把握しておき、今後状況を見ながら対応していく。現在は歯科と散髪を訪問を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び家族様の希望を確認しているが、協力医療機関に変更することが多くなっている。定期受診の付き添いや特変があれば電話で指示をもらっている。	かかりつけ医から、月に1度受診を受けている。歯科も月に1度受診を受けているが、気になる際には、さらに受診を重ねられる。病院の夜勤ナースとの連携も取れていて、緊急時の対応も依頼できる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や病院の看護師の訪問時に入居者様の日々の健康状態について適切な指示をもらい、受診の調整をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際は必要な情報を医療機関に提供し、医療機関職員と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を契約時に本人様・家族様に説明を行い、重度化した入居者様に対しては、家族様、主治医を交えて話をし今後のケアの方向性を決めている。	ターミナルケアは、利用者や利用者家族、かかりつけ医と相談の上、医療機関に繋げている。直近では4名の方が移行しており、安心して支援を受けられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的な研修で新しい職員にも実践力が身につくように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を実施しているが、地震、水害等の災害訓練実施している。	年に2回、避難訓練を実施している。利用者の動きについて、職員の誘導方法と併せて確認を行っている。防災士から、消火器や消火栓の使い方、通報の仕方について講習を受け、研鑽を重ねている。備蓄食料は3日分保管している。	備蓄食料の内容について、見直しはいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い、人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけや対応について話し合いをしている。	基本的には、苗字に「さん」を付けて呼んでいる。利用者を尊重し、傾聴する姿勢が基本であることを研修時に伝え、徹底している。衣類を汚された際には、素早く片付け、他の利用者には気づかれぬ配慮をしながら誘導を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の思っていること、言いたいことを言えるような環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決めているが入居者様の思いや意見を尊重し、個々のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を聞き、衣類等の購入を家族様にお願したり、散髪は2ヶ月に一度理容師に来てもらって個々の好みで整えている。また、爪切りや髭剃り等対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の状態に合わせて盛り付けのできる方、下膳や片付けができる方、それぞれの能力を活かして関わってもらえるようにしている。	食事は利用者一人ひとりの食べやすい形で提供している。配膳時には全員に声をかけ、食事に気持ち向きやすくしている。集団で食事ができにくい方には、時間や場所を変えて食べやすい環境を作っている。配膳や片付けの他、月に1回調理を楽しめる機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事や水分の摂取量を記録している。主治医とも連携し、食事形態の工夫、量の調整を行っている。摂取状況に応じて栄養補助食品、飲料の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操、毎食後口腔ケアを声かけや介助にて行い、清潔保持に努めている。また、毎月訪問歯科で口腔ケアの指導、義歯調整等を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら、声かけ、見守りをして排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。	トイレが4か所設置されていて、居室からも行きやすくなっている。自発的にトイレに行かれる方も居られるため、見守りに重点を置いている。排泄チェック表を用いて支援しており、昼夜問わず布パンツで過ごされている方が、半数以上を占めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動により便秘改善に努め、必要に応じて受診し、主治医の指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には本人様の承諾を得てから入浴に行かれている。拒否がある時は時間をずらすことや職員が交代して落ち着いて入浴ができるようにしている。	週2回以上、入浴の機会を設けている。浴槽のお湯をかけ流しにしていることで、清潔な環境を維持している。去年は入浴を嫌がられていた方も、「足を洗おうか」と声をかけることで、入浴ができるようになっている。浴槽内で、さらに落ち着けるように、腰掛け椅子の設置を検討している。	お風呂を一層楽しめるようにするための工夫をしてはいかがでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠してもらえるように日中の活動や生活リズムを整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個人の症状や服薬内容を職員が把握できるようにしている。服薬時には日付や名前を読んで再度確認して誤薬が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をしていただき達成したことへの感謝の声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、外出は制限中で苑内での散歩になっているが、映像や本等を観て今後の楽しみにしている。	事業所内でのお花見や、近くの病院の庭に散歩に行くことで、四季の風を感じている。コロナ禍で外出が制限されるため、カルタや神経衰弱、連想ゲーム等、事業所内のできるイベントに力を入れている。職員が輪に入ると、かなりの盛り上がりを見せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様が遠方であったり、成年後見人を利用されている方は少額事業所で預かり、必要な物があれば自由に購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月1回家族様への手紙で日頃の様子をお知らせしたり、作品を送付している。本人様の希望を聞き、本人様の携帯電話で連絡したり、苑の電話をかけたたりし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のホールにはソファを配置し、個々でゆったりとくつろげるよう配慮している。ホール内には季節に応じた創作活動として入居者様の作品を掲示している。	共有スペースには、利用者と職員が作った四季折々の紙の花や、お月見の壁紙が飾られ、明るく彩られていた。事業所の庭が広く、暖かな日差しが感じられやすい造りとなっていて、利用者全員で脳トレや体操をしながら、ゆったりと過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファでテレビを観たり話をしながら創作活動ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたテーブル、机、家族様の写真等、馴染みのある物を居室に置いていただき、家庭的なイメージの中で過ごしてもらえるようにしている。また、居室でゆっくりとテレビを観られるように対応もしている。	居室内はすっきりと整理されていて、生活しやすい環境を、利用者ごとに作られていた。居室のドアに顔写真を貼っている方も居られ、そこが自分の家とアピールしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーであり混乱のない環境作りに努めている。個々の状態に応じて声かけを行い不安なく過ごせるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				